

ゆめ わらわ 夢 臺

菅波 茂

今月26日と27日に、ベトナムのホーチミン市にある175軍病院の副院長(大佐・麻酔科医)をリーダーとした医療および介護視察団が、岡山では社会福祉法人恩賜財団済生会支部岡山県済生会(岩本一寿支部長)、医療法人渡辺医院老人保健施設「ゆめの里」(渡辺清一郎理事長)、そしてベトナムでも心臓手術で有名な佐野俊二岡山大学病院心臓血管外科教授を訪問予定である。

平均寿命が72歳の社会である。最先端の介護対策を実施している岡山済生会グループおよびゆめの里の両者を参考にし、ベトナムにおける老人介護のモデル形成の具現化をしていただきたい。

ベトナム175軍病院との連携

ベトナムでのAMD A初のプロジェクトとなった1996年メコン川洪水緊急医療救援。以降さまざまな事業を実施した



ベトナムでのAMD A初のプロジェクトとなった1996年メコン川洪水緊急医療救援。以降さまざまな事業を実施した

これは大歓迎とのこと。また、少数民族に対する定期的巡回診療にも招待していただいた。ちなみに、175病院は敷地23畝、ベッド数1200、医師300人以上、看護師400人以上、総医療スタッフ約1000人という規模である。ハノイ市にある103病院と108病院を加えて国防省管轄の3大病院である。年内に、175病院、岡山済生会グループとAMD Aの三者間の包括協定を予定している。

175病院は軍病院であるからベトナム戦争の経験がある。ベトナム戦争の後遺症である枯れ葉剤の影響にも気づき始めている。ベトナムは本当に親日的である。「ルック！ ジャパン」を超えた「共産主義」である。175病院長も人材育成などのシステムについて日本式が希望である。日本企業も中国からベトナムなど東南アジアの親日的な国々に回帰している。

農業を使わない有機農業の収入で枯れ葉剤障害児施設の子どもの支援をするのが私の念願である。ベトナム政府は農業の振興にむけ日本からの農業技術導入に積極的である。同時にベトナムの人たちは農業の人体への悪影響にも気づき始めている。

ベトナムは本当に親日的である。「ルック！ ジャパン」を超えた「共産主義」である。175病院長も人材育成などのシステムについて日本式が希望である。

※GPSPII Global Partner
ship for Sustainable
Peace 世界平和パートナーシップ